

## 「フランスにおける同性カップルの居住地の地域間格差とその要因」

政策・メディア研究科 修士 1 年

81324384

桑原ひとみ

### 1. 研究の背景

2004 年、アメリカの Urban Institute の労働・福祉・人口センターのリサーチャー Gary J. Gates と Jason Ost が、アメリカの同性カップルの居住地は大都市圏と観光地域、沿岸地域に集中していることを明らかにした。(Gates and Ost, 2004) これはフランスの同性カップルの居住地にもおおよそ当てはまると言える。<sup>1</sup>フランスの同性カップルの居住地が大都市圏と観光地域、沿岸地域に集中していることは明らかであるが、なぜその地域に集まるのかは分かっていない。先行研究でも、大都市圏、観光地域、沿岸地域に同性 PACS が多く集まることは明らかにされているが、その要因は特定できていない。

「Le mystère français」には、移民や宗教、支持政党や出生率といった様々な切り口でフランスの地域圏を統計学的に分析した地図が存在しているので、フランスにおける同性カップルの居住地の地図と合わせることで、どのような地域圏にどのような特徴があるのか、共通項は何なのかを探っていくことで、フランス地域圏の傾向を明らかにすることを目的としている。

### 2. 用語定義

- ・ PACS: 日本語では連帯市民協約と訳され、性別に関係なく、成年に達した二人の個人の間で、安定した持続的共同生活を営むために交わされる契約のこと。1999 年に制定。
- ・ 地域圏: フランスの最も大きな地方行政区画で、全部で 27 存在している。27 地域圏のうち、フランス本土とコルシカ島を合わせた 22 地域圏を研究対象とする。(例:ブルターニュ地域圏、イールドフランス地域圏など)

### 3. PACS の現状

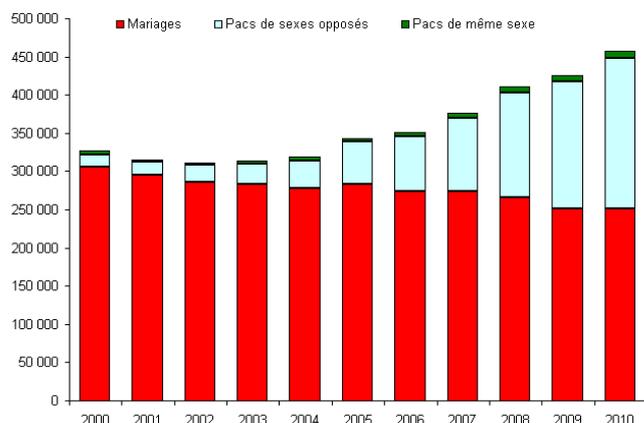
1999 年に PACS が制定されて以来、PACS の締結数は毎年増加傾向にあった。しかし、2010 年をピークに減少傾向にある。2011 年には、2010 年の 20 万件から 3 割減の 14 万 4000 件に減少した。婚姻数や離婚数に大きな変化は見られない。

2013 春、同性婚、同性カップルによる養子縁組を認めたが、同性カップルによる養子縁組

---

<sup>1</sup> (Jaurand et Leroy, 2011, Pacs des villes et pas des champs ? p11)

に関しては世論が割れている。同法案をめぐる、反対派は数十万人規模のデモを繰り返すなど、論争は続いている。



#### 4. 成果報告

##### 4. 1.

##### 2007～2011 年の地域別同性 PACS 数

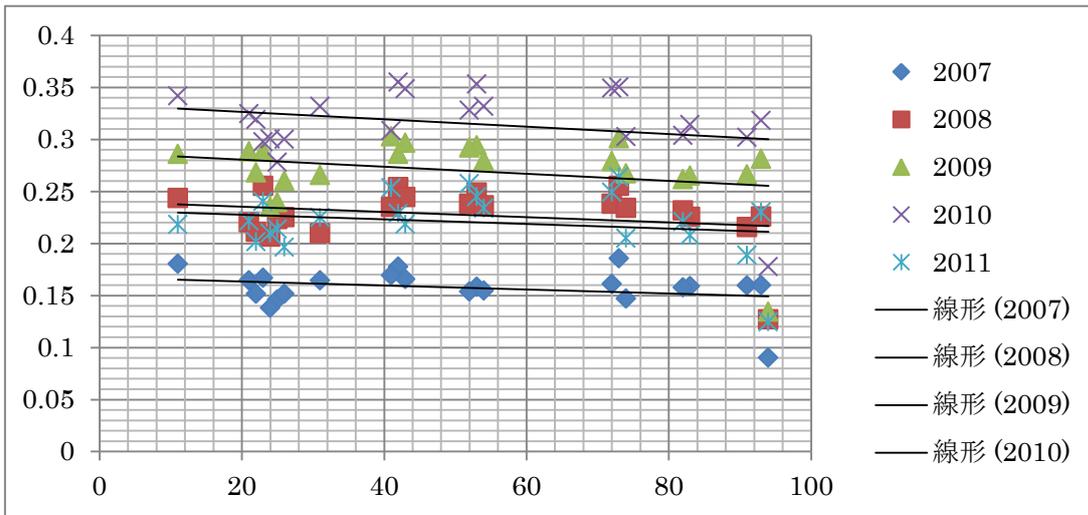
INSEE, Ministère de la Justice のデータでは、1999 年から 2006 年の地域圏ごとの同性カップルの PACS 数が入手出来ず、2007 年以降のデータで調べた結果が以下の通りである。2007 年から 2011 年のあいだの同性カップルの締結数を地域圏ごとにみると、大きな差異が見られず、相関関係を算出するには僅かな差であることが分かった。(コルシカ島は毎年数値が非常に低いため、考察対象から外した。)

Centre や Basse-Normandie が最も低く、Midi-Pyrénées、Lorraine が最も高い。しかし、この差もわずかであり、2007 年以降の各地域圏の同性カップルの締結数は人口比割合で見ると、大きな差は見られず、2006 年から 2011 年の間、PACS 締結数の地域圏ごとの偏りはなかったと言える。

また、PACS 締結数の人口比割合も毎年各地域で同程度の伸び率を示しており、各地域圏の差はほとんど見られない。

##### 《参考》

- ・ 2007 年 : 0.138 (Centre) ~ 0.185 (Midi-Pyrénées)
- ・ 2008 年 : 0.206 (Centre) ~ 0.255 (Haute-Normandie, Midi-Pyrénées)
- ・ 2009 年 : 0.2349 (Centre) ~ 0.30 (Lorraine)
- ・ 2010 年 : 0.278 (Basse-Normandie) ~ 0.354 (Alsace)
- ・ 2011 年 : 0.188 (Languedoc-Roussillon) ~ 0.254 (Lorraine)



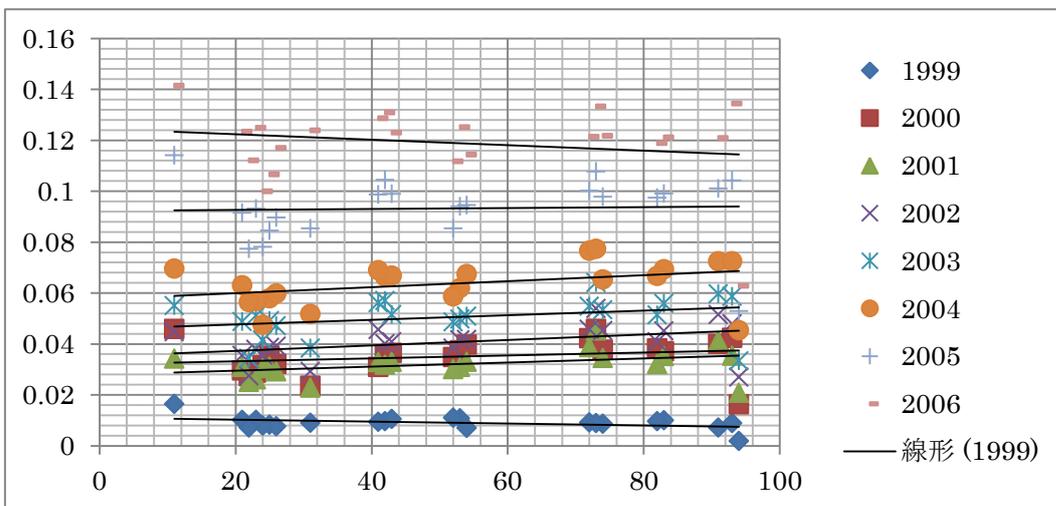
考察

2007年以降の同性カップルのPACS締結数は地域圏ごとに大きな差はみられないと結論づけることが出来るが、地域圏ごとに状況が全く同じであるとは言えないだろう。地域圏ごとに同性カップルに対する風当たり、ホモ嫌いといった同性カップルに対する反応は宗教的背景や支持政党の違いから異なると考えられるからだ。推察の域を出ないが、地域圏の歴史的な差異を乗り越えることに、インターネットは寄与したのではないだろうか。

今回 2007 年以降の同性カップルの PACS 数の人口比割合を算出したが、各地域圏の人口構成比を無視して算出してしまったため、有効な数字なのか不明である。18 歳以上の人口をもとにもう一度算出する必要があると考えられる。

4. 2PACS

1999年のPACS開始から2006年までの各地域圏のPACS締結数を人口比割合で算出すると、地域圏の差が同性カップルよりも差が大きいことが分かった。



## 考察

同性カップルの時と同様各地域圏の人口構成を考慮していないとしても、同性カップルの PACS 締結数よりも地域圏による差が大きいことがうかがえる。以上のことから、PACS 締結が多い地域、少ない地域の特徴を探っていく中で同性カップルについても考察をすすめていくほうが良いと考えており、今後の PACS の締結に焦点をあてていきたい。

## 5. 今後の課題とまとめ

地域圏ごとの PACS 締結についての考察を通して、PACS 締結数が多い地域は卒業論文で考察した片親家族の多い地域とおおよそ一致すると言うことが出来る。(コルシカ島は除く)同性カップルの居住地ばかりに焦点をあててきたが、地域圏ごとの PACS 締結数、片親家族数、移民や外国人の数と並行して考察することで、同性カップルもフランスにおける家族形態の一つであり、フランスにおける地域圏の「家族」の違いによるものではないかと考えている。歴史的な家族構造や宗教、支持政党の違いによって、「家族」の概念が異なっており、その概念の違いによって PACS の受容や同性カップルの受容も異なるのではないかと考えている。

春休み中、「Le mystère français」を参考にしながら地域圏ごとの歴史的な家族構造、宗教、支持政党等のあらゆるファクターから「家族」について考察をすすめ、並行して現代フランスの家族形態について「親密圏の多様性と家族法～日仏比較から～」という新潟大学の島教授の論文、東京大学の佐藤典子研究員の「フランスの Pacs 法成立と象徴闘争としての親密関係の変容」等を参考にしながら考察を進めていく。

今後のテーマは、同性カップルに限らず、フランスにおける家族に焦点を当てる。homoparentalite や LAT カップル、複合家族といった家族の多様性を生み出す要因を歴史的背景、家族形態の変化と人口の動きについて探っていきたいと考えている。